

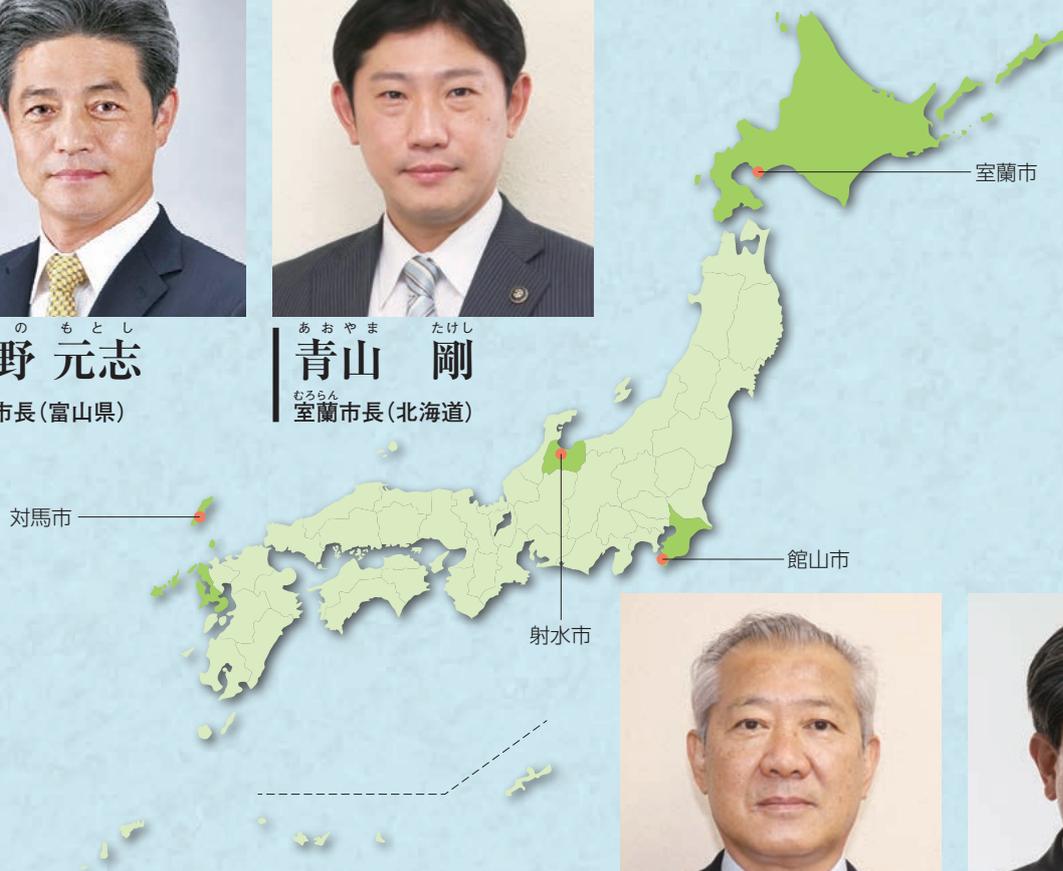
「みなと」でまちを活性化



なつのもとし
夏野 元志
いみず
射水市長(富山県)



あおやまとけし
青山 剛
むろらん
室蘭市長(北海道)



対馬市

射水市

館山市

室蘭市

司会・コーディネーター

ほそかわ たまお

細川 珠生

政治ジャーナリスト



ひたかつ なおき
比田勝 尚喜

つしま
対馬市長(長崎県)



かなまる けんいち
金丸 謙一

たてやま
館山市長(千葉県)

地域の玄関口、物産の集散地としてだけでなく、住民の交流を促進する貴重な資源でもある港。産業基盤の形成、各種イベントの開催拠点、市民や観光客の憩いの場など、地域活性化やにぎわい創出の基盤としてさまざまな役割を担っており、各地で周辺施設と一体となったまちづくりが活発に進められています。

座談会では青山・室蘭市長、夏野・射水市長、金丸・館山市長、比田勝・対馬市長にお集まりいただき、それぞれの港の成り立ちや特徴、港を中心としたまちづくりを進めてきた背景とその効果、今後の展望などについて幅広くお話しただきました。
(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

地域の活力を生み出す港

細川 港は古くから各地の人や物資を運ぶ拠点として、また、地域にぎわいを生む交流拠点として大切な役割を担ってきました。それでは、まずそれぞれの港の成り立ちや特徴などについてお話しただければと思います。

青山 室蘭港は北海道南西部の内浦湾(噴火湾)

明治5年の開港以来
時代の変化に対応しながら
ものづくりのまちとして
日本の繁栄を支えています。



青山 剛
室蘭市長(北海道)

に位置する天然の良港です。明治5年に札幌と函館を結ぶ大動脈「札幌本道」の一部区間(海路)として、内浦湾の対岸に位置する森港との間に航路が開設され、港としての一步を踏み出しました。以来、海陸交通の要衝として、北海道の開港に大きな役割を果たしてきました。

同時に、室蘭港はエネルギーの変遷に合わせて、発展してきた港でもあります。明治中期には北海道内の産炭地から産出される石炭の積み出し港としての役割を担い、その後は臨海部に製鉄・製鋼工場が立地し、ものづくりの港としての歩みが始まりました。さらに戦後、エネルギーが石炭から石油に移り変わると、港湾内に石油関連企業の立地も進んだほか、市内の鉄鋼工場では原子炉の圧力容器の生産も行われました。今では脱炭素社会に向けて、次世代エネルギー事業なども活発に進められています。このように、室蘭港は時代の変化に対応しながら、鉄のまち・ものづくりのまちとして日本の発展を支えてきました。

今年が開港150年・市制施行100年という節目の年です。室蘭市では記念式典や、全国市長会港湾都市協議会総会など、さまざまな行事・イベントを実施していきます。

夏野 伏木富山港は、新湊地区(射水市)、富山地区(富山市)、伏木地区(高岡市)の三つの地区から構成される港の総称です。射水市の新湊地区は昭和43年に開港した港湾で、「富山新港」とも呼ばれています。

富山新港は三つの地区の中で唯一国際物流ターミナルを有しており、国際物流の中核的な港湾として、富山県はもちろん、日本海沿岸地域の経済発展に大きな役割を果たしてきました。

た。また、背後地の臨海工業地帯には製造業を中心に約90社が立地するなど、工業港湾として地域の産業基盤の形成にも寄与してきました。一方、富山新港は国土交通省の「みなとオアシス」にも登録されるなど、地域のにぎわい拠点としての顔も持っています。そのシンボルが平成4年に港湾の西埋め立て地に開園した「海王丸パーク」です。かつて商船学校の大型練習船だった帆船「海王丸」を常時展示しているほか、海洋文化への理解と知識を深める「日本海交流センター」などの施設を備えています。また、パーク内では海王丸パークフェスティバル、富山新港花火大会などのイベントも随時開催されています。



臨海部にきらびやかに浮かび上がる工場夜景(室蘭市)

国内外のいろいろな地域とつながることができるのが大きな強み。港が持つ可能性の大きさを感じています。



夏野 元志
射水市長(富山県)

さらに、日本海側最大級の斜張橋「新湊大橋」の開通に伴い、海王丸、富山湾、立山連峰、そして新湊大橋を一望できる「展望広場」も整備されました。富山県を代表するフォトジェニックなスポットとして、観光客からも大変喜ばれています。

金丸 千葉県南部に位置する館山市は、34・3kmの海岸線を擁する海のまちです。江戸時代から

新鮮な魚介類を船で江戸に運ぶなど、海上交通の要衝として栄えました。東京湾アクアラインの開通で、都心部からのアクセスが格段に良くなり、二拠点居住やワーケーションに適した地域としても注目されています。

東京湾の玄関口に位置する館山湾は、海面が鏡のように穏やかなことから別名「鏡ヶ浦」とも呼ばれています。この館山湾の奥にある館山港は観光・レクリエーションに資する港として、「特定地域振興重要港湾」に指定されたことに加え、首都圏として初めてみなとオアシスにも登録されました。

平成22年には千葉県が棧橋形式としては日本最長で、沖合約400mまで延びる「館山夕日棧橋」が供用を開始しました。以来、クルーズ船や高速ジェット船をはじめ、多くの船舶が寄港しています。さらに、館山市では棧橋の整備に合わせて、千葉県から移譲を受けた「旧千葉県立安房博物館」を改修し、海辺の交流拠点施設「渚の駅たてやま」として整備しました。海洋民俗をテーマとした「渚の博物館」を中心に、館山湾に生息する魚や生物を観賞できる水族館「海辺の広場」、潮風を感じながらくつろぐことができる「展望デッキ」、地元の野菜や魚介類などを取り扱う直売店やレストランなど、多数の施設があり、年間約40万人が訪れる人気スポットとなっています。

比田勝 対馬は豊かな海に囲まれた離島で、島内には重要港湾1港、地方港湾9港が整備されています。中でも、島の南部にある重要港湾・厳原港、北部の地方港湾・比田勝港の2港はみなとオアシスに登録され、対馬市の魅力を国内外に広く発信する役割も担っています。



海王丸、新湊大橋、富山湾、立山連峰が一望できる大パノラマ(射水市)

離島における港の存在は非常に重要です。市内で水揚げされた水産物の島外への出荷、島外からの生活物資の入荷などの「物流拠点」としてはもとより、島民や観光客の移動を支える「人流拠点」としても必要不可欠な施設です。

一方、対馬は天気の良い日には肉眼で韓国を確認できるほどの距離に位置する「国境の島」です。古くから朝鮮半島をはじめとする大陸との文化・経済交流の窓口としての役割を担ってきました。現在は、新型コロナウイルス感染症の影響から休航状態にあるものの、コロナ禍前は、韓国との国際定期航路が就航しており、年間40万人を超える韓国人観光客が入国しています。中でも比田勝港は、国際定期航路による



地域のにぎわいを創出するため
市民や民間のご協力を得ながら
港を活用したイベントを
多数開催しています。

金丸 謙一
館山市長(千葉県)

外国人入国者数日本一です。現在は、コロナ収束後を見据え、厳原港においても外国人観光客の受け入れ体制の強化を図るため、入国審査ブースを増設するなど、新たに国際ターミナルの整備を進めています。
交流拠点として、港湾施設を利用したイベン

トも数多く開催しています。令和3年度はコロナ禍で落ち込んだ消費行動を促すため、比田勝港国際ターミナル周辺を会場に「対馬農林水産祭」を開催しました。

港のポテンシャルの大きさに着目

細川 それぞれの港の特徴や歴史がよく分かりました。各都市とも、港をまちづくりや産業振興に活用されていますが、なぜそもそも、港に着目して取り組みを進めてこられたのか、その背景についてもお話しください。

夏野 私が強く感じているのは、港が持っている可能性の大きさです。富山新港は放生津潟と呼ばれる潟湖を利用して築かれましたが、開港以来、国際拠点港湾として地域経済をけん引してきました。港を通じて、国内外のいろいろな地域とつながることができるとは、港を持つ地域の大きな強みです。現在でも、地域振興に向けて周辺のエリア開発やポートセールス、クルーズ船の誘致などの施策に積極的に取り組んでいます。

金丸 館山市は、北部が東京湾、南部が太平洋に面しており、鏡ヶ浦と呼ばれるほど波が静かな海岸もあれば、荒い海岸もあります。岩場もあれば砂浜もあります。多様性に満ちた海洋資源を有しているからこそ、さまざまなマリンスポーツや海水浴、自然体験を楽しむことができ、海・山が身近にあるので、当然、おいしい食べ物がたくさんあります。また、陸上・海上交通がいずれも活発で、多くの人が往来する交通の結節点でもあります。このような地域特性を、交流人口・関係人口の増大につなげたいと、海や港を活用したまちづくりに懸命に取り組ん

でいます。

比田勝 対馬市の大きな強みは、古来、朝鮮半島と人の往来、貿易が盛んに行われてきた歴史です。江戸時代に朝鮮から訪れた外交使節団「朝鮮通信使」はその象徴ですが、こうした大陸との歴史、文化を観光資源と位置付けながら、港を生かした活性化策に取り組んでいます。

青山 臨海工業地帯に立地したそれぞれの企業の生産活動により、室蘭市の産業は活性化しました。今でも各企業の活発な設備投資は、市の歳入確保に大きく貢献いただいています。その意味でも室蘭港は、地域にとって欠かせない資源であるため、市としても港湾整備や港を生かした産業振興にとりわけ力を入れています。



クルーズ船をはじめ、さまざまな船舶が寄港する「館山夕日棧橋」(館山市)

対馬は古くから朝鮮半島をはじめとする大陸との文化・経済交流の窓口としての役割を担ってきました。



比田勝 尚喜
対馬市長(長崎県)

地域を挙げてにぎわい創出へ

細川 港を生かして、交流人口を増やすためには、市民や関係機関の理解や協力も必要だと思います。そのために行政として工夫していることなどはあります。

金丸 館山市では「たてやま海まちフェスタ」や「館山湾花火大会」「館山わかしおトライアスロ

ン大会」など、年間を通じて港や海を活用したイベントを多数開催していますが、こうしたイベントは行政だけではできません。市民や関係団体の皆さんが快く参加・協力ができるよう、市はあくまでも裏方として支える役目に徹しています。いずれのイベントも大いに盛り上がっています。クルーズ船についても、民間組織の「館山市客船等歓迎委員会」が中心となつて、誘致やおもてなしなどに積極的に取り組んでいただいています。

比田勝 対馬市では「国境の島」という、対馬ならではの「地の利」を生かした観光振興に、地域を挙げて努めているところです。もちろん、言語の問題はありますが、国際交流員による韓国語講座が開かれるなど、言葉を学ぶ機会も多く、観光に携わる方々はとりわけ熱心に学ばれています。例年、8月初旬に開催する「対馬厳原港まつり」においても、韓国から正使・副使、舞踊団などをお招きして、500名ほどの行列を再現し、双方の絆を深めています。また、朝鮮との交流の歴史などを紹介する「対馬博物館」も間もなく開館します。韓国との定期航路が再開されたら、また多くの韓国人観光客が対馬を訪れていただけるものと期待しています。

青山 工業港としての性格が強い室蘭港です。平成24年にはみなとオアシスの登録を受けるなど、にぎわい・交流拠点としての取り組みにも力を入れています。特に近年は、水深が深い室蘭港の特性を生かして、大型クルーズ船の誘致にも積極的に取り組んでいます。

室蘭市の近隣には洞爺湖、登別温泉などの観光地もあります。また、市内にある東日本最大



「対馬厳原港まつり」で行われる朝鮮通信使の再現パレード(対馬市)

のつり橋「白鳥大橋」や「工場夜景」などの観光資源の活用も進めています。今後もクルーズ船の受け入れに伴い、他地域とも連携しながら、各種資源を生かした観光振興に、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

夏野 射水市では、例年、全国のボランティアの皆さんに協力いただき、海王丸の全ての帆を広げる「総帆展帆」を年間10回ほど実施しています。「海の貴婦人」とも称される海王丸の美しい姿を見られるとあって、多くの観光客が訪れます。また、港湾エリアにはとれたての海の幸を提供する民間経営のフィッシューマンズワフも進出していますし、観光客が昼食後に競りを見学できるよう、新湊漁協では「昼セリ」を実施

していただいています。このように、さまざまな主体に協力いただきながら、観光振興に努めています。

さらなる地域の発展に向けて

細川 最後に今後の展望をお聞かせください。

青山 冒頭にお話ししたように、室蘭港はエネルギーの変遷とともに発展してきました。現在は、世界中で脱炭素へ向けた流れが進んでいますが、市内には水素の特許技術を多数持つ企業もあり、各種実証実験も進めています。また、洋上風力発電の技術開発の進展に加えて、パームヤシ殻を用いた、国内最大級の本質バイオマス発電所も稼働しています。鉄鋼・エネルギー関連産業の集積を含め、これまで先人が築き上げてきたものづくりの財産を、ぜひ脱炭素社会において発揮していきたいと考えています。

今年には開港150年です。「港の元気は日本の元気」との思いで、室蘭市の新たな挑戦の模様をさまざまな機会を通じて発信していきたいですね。

夏野 伏木富山港としても、カーボンニュートラル検討協議会を立ち上げ、港の脱炭素化へ向



細川 珠生
政治ジャーナリスト

けて検討を始めたところですが、国や県、民間企業と連携しながら、効果的な取り組みを進めていきたいと思っています。

また、市内には港湾エリアのほど近くに、北前船の中継地として栄えた「内川」エリアがあります。水辺の景観がひととき美しく、近年は民家を改造したカフェなど、集客施設も増えてきました。そこで、射水市ではこの内川エリアと港湾エリアを合わせて「射水ベイエリア」と名付けて、相互の連携による周遊観光の促進、活性化を強力に推進していきたいと考えています。

金丸 海辺の環境保全は極めて重要です。館山湾の南側に、歩いて渡れる無人島「沖ノ島」があります。サンゴ生息の北限域ともいわれ、アマモなどの藻場が形成されるなど、館山湾の生き物たちに触れ合える自然豊かな島なのですが、令和元年の台風災害で、倒木などの被害を受けました。館山市としては、市民と一体となって沖ノ島の自然再生に50年計画で取り組み、次世代の子どもたちに豊かな自然を残していきたいと考えています。

また、館山市はインバウンド誘致をきっかけに、台湾との交流を積極的に進めています。昨年、日本台湾文化芸術交流会の尽力で、台湾の小中学生の作品展などを、渚の駅「たてやま」で開催しました。コロナ収束後はぜひ多くの台湾の方々を館山市にお迎えするなど、インバウンド需要の取り込みに注力したいと考えています。

比田勝 一昨年に家庭用ゲーム機によるアドベンチャーゲーム『Ghost of Tsushima』（コースト・オブ・ツシマ）が発売されました。元寇期の対馬を舞台としたゲームですが、既に全世界

で800万本が販売されています。ゲームの中で描かれる島内の風景も非常にリアルで、地名もそのまま使われています。この世界的なヒットに伴い、実際の対馬市の認知度も飛躍的に高まり、国際的にも注目されるようになりまし。このチャンス地域振興に着実につなげられるよう、コロナ収束後には、韓国に限らず、世界中から観光客をお招きできればと考えています。

細川 お話をお聞きして、港が持つポテンシャルの大きさを改めて実感しました。観光や交流の拠点としてはもとより、産業基盤の形成、さらには、世界的な潮流であるゼロカーボンの推進にも大きな役割を果たすことがよく分かりました。



この2年間、コロナ禍で大変な影響を受けたと思いますが、コロナは必ず収束します。今後とも全国のトッププランナーとして、港を中心としたまちの活性化をさらに活発に推進されることを願っています。本日はありがとうございました。

（令和4年3月14日、WEB会議形式にて開催）
本コーナーは隔月掲載となります。次回は7月号に掲載予定です。